

平成18年2月26日

校訓分析による学校教育の目的と学校教育目標との関わりについての考察

放送大学大学院（教育開発プログラム）

石川学習センター所属

嶋 耕二（022-840732-0）

1 論文構成

第1章 はじめに

第2章 研究の目的

- 1 学校教育目標と校訓について
- 2 校訓について
- 3 研究の目的

第3章 研究の方法

- 1 研究対象の特定
- 2 データの収集
 - (1) 校訓について
 - (2) 学校教育目標について

第4章 研究の内容

- 1 校訓について
 - (1) 調査
 - (2) 校訓分析による学校教育の目的について
 - ① 校訓に対する校長の考え方
 - ア 校訓制定時期
 - イ 校訓の存在意義
 - ウ 教育に対する校訓の内容
 - エ 校訓の存在と地域の特色
 - ② 校訓のことば
 - ア 分類
 - イ 都市別の分析
 - ウ 学校創立時期別の分析
- 2 校訓と学校教育目標の関わりについて
 - (1) 学校教育目標
 - (2) 校訓と学校教育目標の関わり
 - ① 平成16年度学校教育目標との関わり
 - ② 3年間の学校教育目標と校訓との関わり

第5章 考察

- 1 都市別中学校の校訓について
- 2 年代別の校訓について
- 3 校訓と学校教育目標との関わりについて

第6章 まとめ

参考文献

- 志水宏吉：「カリキュラムと学力」『学校臨床社会学』
上滝孝次郎、山村賢明、藤枝静生：『日本の学校教育目標』
安彦忠彦：『教育課程編成論』
新井郁男：『教育経営論』
金沢市立中学校（各校）：『学校管理運営計画』
中西 朗：「校訓」『学校教育辞典』
参議院会議録情報
山口倬史：『校訓に見る教育理念解明の探索』
北山 忍：「文化の中の学習」『教授学習過程論』
市村尚久：「教育目的」『学校教育辞典』
岡本 薫：『新不思議の国の学校教育－日本人自身が気づいていないその特徴－』

武光 誠：『県民性の日本地図』
 浅野秀重：「金沢市立小学校校歌の研究」
 秦 郁彦：『旧制高校物語』
 祖父江孝男：『県民性』

2 要旨

社会の変化に伴い、教育も大きな変化の中にある。価値観の多様性、教育施策の要請から、学校教育においても日常的に改革を行っている。反面、過去から変化しない価値観（不易なもの）を大切にすることも重視されてきた。本研究では、学校が持っている「校訓」を分析することで学校教育の目的を明らかにし、校訓が学校教育目標にどのような影響を与えているかを解明した。

校訓を持っている中学校の校長に対しての質問紙調査や、ホームページを閲覧することで校訓や学校教育目標を収集した。

質問紙の回答から、校長は校訓の存在を「必要である」、内容を「今の時代に大切な内容である」とかなり高い割合で評価していた。また、校訓の分析から、校訓のことは江戸時代から続く県民性を表し、学校が設立された時期の価値観が影響していた。例えば、「協力」や「学習」に関する校訓は昭和20年代に、「たくましさ」に関する校訓は昭和40年代から昭和50～60年代にかけてみられ、「創造性」や「豊かな情操」などは、昭和50年代から平成年代にかけて出てきている。年代を通じて共通する校訓の分類は「自主性」であった。

学校教育目標と校訓の関係では、学習指導要領一部改訂後の平成16年度学校教育目標と平成14、15、16年度3年間継続しての学校教育目標に関わり合う校訓の分類は「自主性」「たくましさ」「自他の尊重」であった。他との関わりよりは、個に関する資質や個に身につけてほしい態度に関するものが多かった。

これらは、江戸時代から明治時代、第2次世界大戦後と変化の大きな社会の中で我が国の教育がめざしている個人の育成と一致していた。

図 学校創立時期別「校訓のことば」の推移

横軸：各時代の延べ数に対する割合（％）



